

訪問診療・往診・訪問リハビリテーション



医療法人平和会
ひさまつクリニック

Wenson 通信

～うえんそんつうしん～

VOL.6

■ひさクリグッズご紹介～福祉用具編～

当院では、より良い医療・リハビリを提供するためのグッズを常備して活用しています。その中の一つ『杖』を今回ご紹介したいと思います。

< 1 本杖 >

今、もっとも普及しているタイプの杖です。全体の形から T 字型とも呼ばれています。握り易く、手首の力が利くような仕組みになっています。重さは、200 グラム～ 500 グラムです。

～ワンポイントアドバイス～

①杖ゴムの替え時は、床面（ザラザラしていないフローリング）にゴム面を斜めに押し当て、滑りやすいかどうかで判断します。

②握り手を逆に持つ方がいらっしゃいますが、握り易く持つために工夫されています。握りにくい場合は、握り手の形状を変えて試してみても・・・



③テレビで、仙人らしき人が長い棒？を持っていますが、杖としての効果は期待できません。どちらかというと、仙人オーラ??

文責：金谷 PT
(福祉用具プランナー)

福祉用具とは

高齢者や障がい者の自立に役立ち、ご家族もしくは介護する方の負担を軽減します。そんな役割をもつ生活の道具、本人に合わせた生活の必需品です。



我が家のペット

初めまして。僕は、オカメインコの太郎、25 才です。人間の年でいうと、結構長生き。ひそかにギネス記録ねらっているんだ。特技は歌。高音には自信があるよ。好きな食べ物は、ひまわりの種。好物さ。手に乗せてもらって背中を撫でて貰っている時、気持ちいいんだよね～。5 月までは他の所に住んでいたんだけど、優しく飼った飼い主さんがぼくより早く死んじゃったので、今は尚子さん宅に引っ越してきたんだ。彼女は毎日ごはんの準備や、部屋の掃除をしてくれるよ。尚さんはひさまつクリニックで看護師として働いているんだけど、夜更かしなんだよね～。僕が眠そうにしている時、時々遊びたがるから、仕方ないので歌ってあげるととても喜んでくれるんだ（単純なやつ）。まあ、こんな感じでつぶやいてみたけど、読んでくれてありがとう。また、ぼくに会いたくなったら声をかけてみてね。ピヨッ。



(撮影、文章
佐藤尚子)

研修報告

「食べるをサポートする」患者さんの気持ちになる・・・ 言語聴覚士 下嶋早苗

『食べる』をサポートする』をテーマに、嚥下（飲み込み）障害の仕組みとその対応について 3 名の職員が研修を受けてきました。午前の部は、加治木温泉病院の原口友子 ST（言語聴覚士）による、摂食・嚥下機能の基礎や障害の仕組み、訓練方法、食事場面での介助方法等の講義を受けました。とろみ茶やゼリーを使用し、悪い介助方法で食べさせられることで、患者様の気持ちを体験する事が出来ました。患者様との視線の高さや一口量、声掛けのタイミング等…気を付けなければならない事は沢山あり、その一つが欠けただけでも、患者様を不安にさせ、むせる原因にも繋がるのだと改めて感じました。午後の部は、食べる為の姿勢作りについて車椅子の仕組みやポジショニングの際の調整方法について詳しく学びました。その他にも、ベッド上での食事姿勢について患者様の立場で体験しました。寝る位置が少し下にずれただけでも、ベッドアップした際に、のどや胸の圧迫感を感じ、その状態でタマゴボーロを食べると咀嚼しづらく、飲み込みにくい為大変苦痛に感じました。



今回の研修を通して、『姿勢』の変化が飲み込みに与える影響について身をもって体験する事が出来ました。『座る』『寝る』動作一つにしても、患者様が快適・安全に過ごしていただく為には多くの事に気を配る必要があり、声掛け一つでも不安が軽減されるのだと感じました。今回学んだ事を今後の臨床に活かしていきたいと思っています。